

周産期からの子育て支援に取り組むスタッフをつなぐ

ハロー・ファミリーカード通信

「私たちは、妊娠・出産から始まる子育てを応援します」



第2号

<平成22年4月発行>

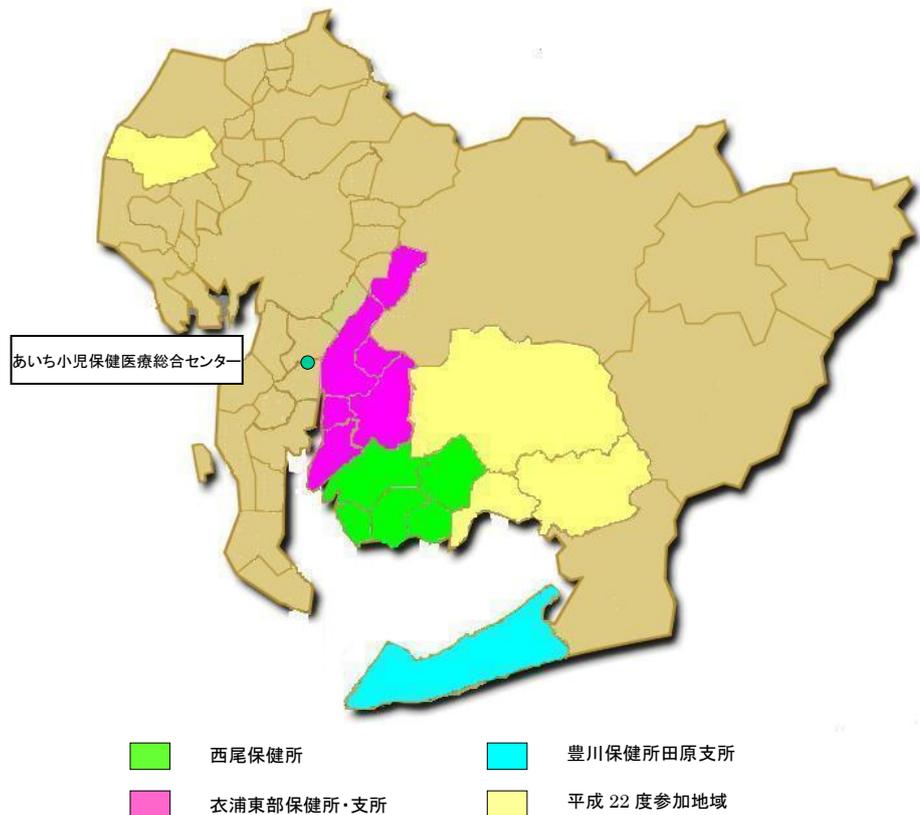


平成18年1月に愛知県西尾保健所管内の6つの周産期医療機関、助産所と市町保健センター、保健所から始まったハロー・ファミリーカードプロジェクトは、平成19年4月には、西尾保健所管内に隣接する衣浦東部保健所管内の8つの周産期医療機関、助産所と刈谷市・碧南市・高浜市・安城市・知立市・三好町の各保健センター、保健所にも拡がりました。その後、衣浦東部保健所管内の病院が1か所参加していただきました。

20年12月には、豊川保健所管内の田原分室管内へとプロジェクトの輪は広がっています。

21年度は、豊川保健所管内での参加機関の拡大をさらに会議等を通じて進めていきました。そして、平成22年度には、豊川保健所管内、岡崎市、一宮保健所管内の周産期医療機関や助産施設、保健機関の参加が決まりました。岡崎市保健所管内では、乳児健診などで早期から母子に関わる小児科の参加が予定されています。

また、今後のハロー・ファミリーカード導入に向けて知多保健所管内で地域の周産期医療機関や助産施設、保健機関との話し合いが重ねられています。



どんな時に使うカードなの？

ハロー・ファミリーカードプロジェクトが始まって、5年目になりました。参加してくださっている周産期医療機関や助産施設、保健機関では、導入時の話し合いを知らないというスタッフも増えており、このカードの持つ意味や役割をスタッフ間でどうつなげていくかが課題の1つであるという声を聞きました。また、お母さんが孤立することのないようにと多くの人にカードを渡したいと思うと、当初の計画のように医療機関でカードの後ろに居住地の保健センターのシールを貼るのはとても大変という声も聞きました。そこで、ハロー・ファミリーカードプロジェクトについて改めて考えてみたいと思います。



このプロジェクトは子育てをスタートする母に対し、医療現場と保健現場のスタッフが協働して子育て支援に取り組み、子育て不安の軽減や虐待予防を目指す取り組みです。カードは、子育て上の些細なことでも相談してよいという気持ちに母になるための支援ツールであり、医療機関から保健機関につなげることの同意を母から得るための連携ツールでもあります。出産後に気になる母親にカードを渡しながら「お母さん、ひとりで悩まないで。心配なことがあれば、ここに相談していいんだよ。」というメッセージと安心を伝えることができます。

カードの配布場面やカードの渡し方などは、各医療機関・助産施設、保健機関で工夫していただいていると思います。このカードは、担当助産師・看護師・保健師の名刺がわりに利用しているところもあれば、病院から地域へ連絡表を送付する時に、「確かに連絡したから安心してね。遠慮せず相談していいんだよ。」とお母さんに安心を目に見える形で示すために使っているところもあります。

また、地域の医療機関・助産施設と保健機関がこのプロジェクトをきっかけに顔が見える関係になり、お互いの役割を理解したり、協働して母子保健の課題に取り組んでいくのに役立っているという声もありました。

今後もそれぞれの機関で創意工夫をしながら、カードを通して、子育てをする母に安心感を提供していきたいでしょう。

ファミカは、雑誌などでも紹介されています

NICU新世紀へ

周産期から始める子育て支援として、医療や保健の現場では、さまざまな取り組みが始まっています。しかし現実には、医療機関と保健機関の間や支援するスタッフ間の認識の違い、支援が必要と感ずる人ほどかわるのが困難などの課題も数多くあります。私どもの地域で数年前から始めている病院と地域のスタッフ同士の連携、スタッフと支援を受ける人との気持ちをつなぐための工夫をご紹介します。

ファミカのご紹介

ファミカ(ハロー・ファミリー・カード)は、紙でできた1枚のカードです(図)。情報は多くありません。でも、このカードを利用している地域では、カードを渡すスタッフ(助産師・看護師・保健師)、カードをもらうお母さんたちから高い評価を受けています。

図 ファミカの例

あなたの子育てを応援します！
ハローファミリーカード
山田産婦人科 相談時間 午前9時～午後5時
相談電話 0563(56)3245

保健医療の現場から取り組む私たちの小さな試みが、全国誌などでも取り上げられるようになりました。写真は、NICU mate (ニキュ・メイト) 27号の記事です。(2010年2月20日発行) 全国のNICU関連の病院に配布されています。

雑誌チャイルド・ヘルスにも、話題/情報として掲載されました。(Vol.13 No.3 2010年3月1日発売)

周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会

テーマ「乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)の発生機序と予防対策について」

講師 特定非営利活動法人 子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク理事長

山田 不二子

乳児期の虐待による頭部外傷の中でも最重度の結果を招くものが乳幼児揺さぶられ症候群です。この SBS を防ぐための効果的な予防プログラムについてお話いただきました。

平成 22 年 2 月 28 日(日)にあいち小児保健医療総合センターで開催しました。今回は、周産期医療現場から 13 名、保健所、保健センターなどから 32 名、また児童相談所にも案内させていただき 2 名の計 47 名の参加がありました。「乳幼児揺さぶられ症候群」の発生機序と予防対策について非常に具体的にわかりやすくお話を頂きました。SBSを予防するための両親への教育は、産院からの退院指導時が有効という研究結果がアメリカで示されているそうです。赤ちゃんからのメッセージである「泣くこと」を親はどう受け止め、対応すればよいのか、そして専門職である私たちはどのように両親を支援していけばよいのか、講演の後、活発な質問や意見交換ができました。山田先生からの熱いメッセージを受け、それぞれの機関でどんな役割が果たせるか参加者一人一人が真剣に考えていただいたのではないかと感じました。

研修参加後のアンケートでは、「SBSの予防対策に取り組めると思う」と答えていただいた方が 31 名ありました。是非、それぞれの職場に戻り、現場でできることを考えて予防に取り組んでいきましょう。

研修の資料として配付したリーフレットは、日本小児科学会のホームページからPDFファイルで取り込み印刷することができます。例えば、このリーフレットを地域のパパママ教室など妊娠中に健康教育を実施し、さらに周産期医療機関で出産後の退院指導で再度学ぶ機会があれば、新米のお父さん、お母さんは赤ちゃんが泣いたときに望ましい方法で対応できるのではないのでしょうか。また、本格的に始まった「赤ちゃん訪問」を効果的なものにするためにも、赤ちゃんの泣きに対応するための知識と方法が書かれたこのリーフレットは活用が考えられるのではないかと思います。

日本小児科学会のホームページから、ガイドラインをクリックし、乳幼児揺さぶられ症候群防止パンフレットをご覧ください。このPDFファイルをA4で裏表両面印刷し、三つ折りにして利用できます。

http://www.jpeds.or.jp/guide/pdf/07815_shaken.pdf



[あいち小児保健医療総合センターのホームページをご利用ください！](#)



- ◆ 周産期医療現場スタッフが取り組む子育て支援マニュアル
—周産期医療現場での親子支援に役立つ内容です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/manual/kosodate/>

※アクセスには、ユーザー名とパスワードが必要です。

ユーザー名：**achemec**

パスワード：**achemec**（ともに小文字で入力してください）

- ◆ 保健機関から医療機関への PR

—愛知県内各市町村の妊娠中から乳児期の母子保健活動を掲載—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/S006/hokenkikanPR/>

- ◆ 妊娠・出産・育児期に支援を必要とする家庭の地域における
保健医療連携システム構築ガイドライン

—医療機関と保健機関の連携を考えるうえで必見です—

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/S006/web/guideyanagawa.pdf>

ファミカ通信編集局より

ファミカ通信第2号はいかがでしたでしょうか？

ファミカ通信は、保健や医療の現場で多忙な毎日をご過ごしておられるスタッフの皆様に向け、あいち小児センターから発信する小さなメッセージです。

日々の日常業務の中で、「これからの子育ては大丈夫かしら？」と感ずる家族に出会うことは、決して少なくありません。また、どんどんエスカレートしていると思えないような児童虐待のニュース。愛知県ではほとんどの自治体に要保護児童対策地域協議会が設置され、福祉システムとしてはある程度機能してはいますが、虐待による死亡はいまだに起こっています。虐待予防のためのさまざまな取り組みが、「健やか親子21」でも重要な課題とされています。

小さなカードを利用した私たちの取り組みは、地味で根気のいるものですが、たった一枚のカードが結ぶ現場スタッフと家族との絆は、かけがえのないものとなる場合も少なくありません。一枚のカードが渡されることで、ひと組の家族とスタッフとの信頼関係が生まれます。その積み重ねが、いつか子育て支援の大きな輪になることを望んでやみません。

発行 あいち小児保健医療総合センター保健室

〒474-8710 大府市森岡町尾坂田1番2号

TEL (0562) 43-0500 FAX (0562) 43-0504

URL:<http://www.achmc.pref.aichi.jp/>

